
幸せであると

普通のシー様（冷凍済み）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せであると

【Nコード】

N2926Q

【作者名】

普通のシー様（冷凍済み）

【あらすじ】

対人恐怖症で引き籠もりしてるオイラはリアルでは友達が皆無。でも、ココならうでは一杯居る。

対人恐怖症で引き籠もりしてるオイラはリアルでは友達が皆無。
でも、ココならうでは一杯居る。

1万人くらいのユーザーがオイラにとっての友達気分。

遙か昔の事であまり良く覚えて居ないが、友達が居た時代から対人恐怖だったから、いつもその人を失うのに恐怖してて、居心地の良いものではなかった。

でも、ここで小説を書いてたら、あれよあれよと人があるまるし、あれよあれよと作者に話しかけるし、気付いたら沢山友達みたいなのが居た。

勿論、失うのに恐怖してただけど、ココの皆なら大丈夫と思った。

2

だって小説書けるのって凄いから、そういう人らと近づけるなんて光栄。

近づきたかったから、まず自分をさらけて弱みを見せて安心させる必要があるのだが、弱みを見せるのに抵抗がなかった。

小説を読むと判るのが作者の人柄みたいなもの。

どういう意図で書いたのか何となく判るといふか、やさしい童話を読んだら作者の優しさが伝わるし、正義が悪をやっつけるのを読んだら作者の正義感が伝わって来る。

すると警戒心が無くなり、自然に自分から心のバリアを解いて行く。

こんなにも開放された気分は無い。

生まれて初めて得た楽園の様な気分

しがらみがなくて・・・仮にへまして嫌われても、オイラにとっては、皆がスターの様な存在だから、関係が終わらせられるのは仕方ないというか・・・寂しいけど、今まで触れられていただけでも幸せという感じ。

読者が感想書いてくれるのも嬉しい。

ただ、ちよつと小難しい感想とか、真面目な挨拶して来る人は苦手。どうしても萎縮してしまうし、こちらも真面目に返さないといい様なプレッシャーを感じてしまう。

まあ、どんな感想貰っても返信にプレッシャーを感じなかった事は無いのだが・・・

想定外の駄目出しはキツイいし、カツとなって、ケンカしてしまいそうになるけれど、それもオイラの才能で後々覆せるから争いも記念になる。

駄目出しに駄目出しで返すのみである。

そもそも一般読者がオイラに意見するのは100年早いというか、プロでも意見する資格はないね。

皆とは価値観や次元が違うから仕方が無いのだけど、みんなはオイラよりも人生苦勞してないから未熟だと思うよ。

立場とかしている仕事と比較したら頭は上がらないが、オイラの思想は崇高で、全ての人類の幸せを常に考えてる。

それが考えられてるオイラはカッコいいし、そんな自分でエクスタシーに浸れる。

勿論、ひきつきーできるからこそ、そのエクスタシーに時間を当てられる訳で、やはり、ニート出来てる自分は幸せ者だと思う。問題

は山済みだけど、なるうでの活動に夢中で忙しいから、処理しなきゃいけない問題を考える暇が皆無である。テレビを見る時間も勿体無い。

このまま時が止まって永遠になればいけれど、そうもいかない。

親の老後もあるし、時間が経つ程に自分の首を絞める。

働きたいけど働けないとは、ちと違う。

社会の何のへんてつも無い歯車となるのが嫌なのね。

要するに子供な思想よ。自分が特別な人間であると思ってる感じ、

だつて親にそうやって育てられたもの。

「貴方は特別な子」

そんなテンションで育てられたのが普通の人でしょう。

一人っ子とか、特に親の愛が集中するから、そんな感じの傾向が強くなる。

親は、何だかんだ頑張つてオイラを動かそうとするけれど、結局甘えられる巢を用意する。

愛情の裏返しで冷たい態度を取られたりして悲しんだり、優しくされたり・・・

お互いがお互いに妥協する。

親はオイラにプレッシャーかけ、愚痴をしてオイラで発散し、オイラはここで愚痴を発散する。

ここが無ければオイラ今ごろ、不幸のどん底。。

いや、むしろココがあるから、これから不幸のどん底に陥っていくんか??

幸せの先払いかも

ため息が出るかと思っただが全く出ない。

そっぴや、オイラため息を今まで生きて来て一度も吐いた事ないね。

ため息は、親たちで腐る程聞いてて、苦痛を与えるものだと思ってるし・・・

ため息したとしたら、多分、それはギャグだろうと思う。

あ、でも10歳くらいまでは腐る程してた。

気持ち的には「こんなオイラかわいそうじゃね? 世界一不幸だ!」
という意識があったけど、今はそんなのじゃない。

使命感というか・・・

読者(貴方)より不憫な人を見ると安心するでしょう。

あ、自分は、まだマシだ〜!とか思っただ、幸せな立場を実感するだろうし、オイラが可哀相で同情して優しい言葉をかけてあげたくなくなる。

お節介する自分に使命感を感じて、持て余した時間に意義を見い出して充実感を得られるでしょう。

つまり、そういう事よね。

なんやかんやで、オイラは誰かの為に貢献している。

親の幸せを犠牲にして、みんなの為に貢献してる。

貢献して充実を感じてるオイラは幸せ者だから、むしろ皆がオイラに貢献してくれてるとも言える。

何がなんだか訳が判らない。

てか、そんな卵が先かニワトリが先かな問題なんてどうでもいいよ。もっと充実した問題をオイラ抱えてるから、オイラの代わりに挑戦して欲しい。

挑戦してクリアした人は、この世界で最も偉大な事を成し遂げた人であると思うねw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2926q/>

幸せであると

2011年1月26日11時58分発行